

第 4 号…平成26年7月

協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

- 3 定時総会報告
第2回 定時総会
- 4 理事長あいさつ
- 5 関東地域づくり協会からのお知らせ
新役員紹介
勤続精励職員表彰
- 6 平成26年度 関東地方整備局 関係予算について
- 7 平成26年度 公益事業紹介
- 8 圏央道(首都圏中央連絡自動車道)が着々と開通
- 9 国道357号東京湾岸道路で2立体が完成!
地盤液状化に関するパネル展 開催
第63回 利根川水系連合・総合水防演習 開催
- 10 プロジェクトK②
悪条件を克服して造り上げた
2つのトンネル
国道52号南部バイパス
- 14 関東の河岸めぐり①
境河岸 茨城県
- 16 関東の土木遺産②
権現堂川用水樋管群 埼玉県
- 18 会員のひろば
猫のいる暮らし
- 19 会員情報
新会員紹介・退職者紹介・お悔やみ
- 20 現場見学ツアーに協力しました
編集委員会だより



表紙の言葉

佐多直武氏(元下館工事事務所所長)

尚仁沢湧水

溪流に光芒が差し、栃木県塩谷町の尚仁沢湧水です。高原山の中腹に位置するこの沢は、昭和60(1985)年に環境庁(当時)から「全国名水百選」の認定を受けました。

7月中旬の暑い日の未明に現地に行き、光芒が出るのを待っていたら6時半頃に川霧に朝陽が差し、青白い幻想的な光芒が現れて感動しながら夢中でシャッターを切りました。

第2回 定時総会



平成26年6月12日（木）、大手町サンケイプラザ（東京都千代田区大手町）において、平成26年度第2回定時総会が開催されました。総会には、会員1,313名中1,114名（出席者396名、委任状提出者718名）が出席しました。

総会は、奥野理事長によるあいさつの後、議事である第1号議案の平成25年度事業報告および決算と会計監査の報告がされ、続いて第2号議案から第3号議案の役員改選まで審議され承認されました。また、引き続いて平成26年度事業計画および予算等についての報告がありました。

総会終了後、講談協会常任理事・一般社団法人日本演芸家連合常任理事・保護司 五代目一龍斎貞花氏による講演「江戸の安心・安全まちづくり」が行われました。

一龍斎貞花氏は、江戸時代から現代にいたるまで江戸（東京）を中心に数多く発生した大火事、大地震などの災害を取り上げ、そうした災害が発生したときの的確な対応がどれだけ重要で大切であるかをさまざまな実例を引きながら力説しました。迅速で的確な対応のためには公的な立場の人たちの行動が大事であり、その行動の基本的な心構えとしては、法律や前例にと

らわれるのではなく、困っている人たちをいかにしたら救えるのかという視点を忘れてはいけません。また、災害が発生した後の対応も大事だが、火事や地震などがあっても大きな災害にならぬよう、道路などのインフラ整備や防災対策を着実にやっていかなければならないことも話しされました。



一龍斎貞花氏による講演

理事長あいさつ

奥野晴彦

本日は、皆様には一般社団法人関東地域づくり協会の第二回定時総会にご出席いただき、ありがとうございます。

昨年4月1日をもって一般社団法人に移行して以来、1年が経過いたしました。この間、我が国の経済状況は、概ね順調に推移してまいりました。一昨年の政権交代以来とられた金融政策、財政政策が奏功し、企業業績も好調に推移している模様です。大企業を中心とした民間企業においても、賃金アップも実現したという報道も聞かれます。4月に実施された消費税増税に対処するための25年度補正予算、26年度当初予算の効果も今後期待される所です。ただし、エネルギー輸入の増大に伴う貿易収支の赤字、新興国等の経済減速などの懸念材料もあるようで、引き続き、慎重且つ積極的な経済運営が求められます。

一方、この一年間でもいろいろな災害が多発しました。梅雨期や相次ぐ台風による水害、土砂災害が頻発しました。従来の経験からは考えにくい記録的な豪雨に見舞われた地域も多くありました。特に、10月伊豆大島で発生した災害は極めて深刻でありました。また、今年2月には、首都圏で大変な豪雪被害がありました。改めて、被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

このように、災害が多発する脆弱な国土で生活する私たちが今やらなければならないことは、第一に、東日本大震災をはじめとする災害からの復興を着実に進めるとともに、今後も発生すると想定される、大規模な地震、豪雨に伴う洪水、土砂災害等に対し、万全の備えを進め、安心で、安全な国土を実現することです。

さて、首都圏の経済、生活を支える重要なインフラである環状道路の整備が急ピッチで進みつつあります。圏央道については、4月の茨城県区間の延伸に続き、6月末には

神奈川県区間のかなりの延長が開通し、東名、中央、関越の各高速道路が繋がります。外環の東京都区間についても本線のシールドが着工されました。また、長年の懸案であったハツ場ダムの本体予算が計上されるなど、関東地域の基盤整備は着実に進みつつあります。

さらに、2020年の東京オリンピックの招致が決定しました。今後の関東地域の地域づくりに、大きなインパクトを与えるものと確信いたします。生き生きとした、美しい国土を、多くの内外の訪問客に見ていただく努力を急いで進めなければなりません。このことは、東京近郊の賑わいをさらに増すことになりませんが、一方、関東地域の中にも、元気をなくしつつある地域が多く存在します。先に触れました防災対策と合わせ、このような地域を活性化することも、喫緊の課題でもあります。災害に強い、安心・安全な地域づくり、生き生きとした美しい地域づくりのためにも、既存のインフラを十分機能を発揮できるものとするを含め、質の高いインフラの確保が重要です。このための重要な法律やそれに基づく基本計画等が最近相次いで制定、策定されました。

一つは、いわゆる品確法、入契法、建設業法の三位一体の改正です。質の高い公共工事を行うためには、地域の担い手を確保すること、真に優れた施工者を選定すること、施工者に適切な利益を挙げいただくことなどの重要性がうたわれております。

次に道路などのインフラの健全性を確保するため、点検、評価、を適切に行い、データベースを整備するとともに、着実に維持、修繕を実施することについての本格的な取り組みが始まろうとしています。

また、国土強靱化法に基づく基本計画が策定され、今後、都道府県、市町村等の地域の計画が策定されることになりました。

これらの制度等のツール(制度インフ



ラといっても良いかもしれませんが)を十分に使いこなすには、直轄はもちろんのこと、地方公共団体においても、公共施設を適切にマネジメントしていく組織、体制の確立が無くてはなりません。これまで、地域の基幹施設の整備、管理を通じ技術とノウハウを蓄積してきた地方整備局の役割が極めて重要です。また、このようなマネジメントに関し、ノウハウを有する当協会としても、関係機関とも協力し、尽力していかなければならないと考えております。

このような情勢の中で、昨年当協会は7月に事業譲渡の受け皿として「関東建設マネジメント(株)」を設立、10月には第一段の事業譲渡を実施しました。工事監督補助業務を中心に、49件、年間ベースにして約18億円の事業を譲渡しました。合わせて、職員114名が協会を退職し会社に移籍しました。この3月には、会社として初めて競争に参加し、概ね昨年並の業務量を実施することになりました。

また、協会の決算は、24年度補正予算、25年度当初予算により、業務量が拡大したこと、経費節減の効果があつたことなどにより、久々の黒字決算となりました。

今年度も公益目的事業を着実に進めるとともに、第二段の事業譲渡を円滑に進めてまいります。さらに、事業譲渡後の業務展開を見据え、マネジメント業務への積極的取り組み、防災業務のさらなる充実、公共団体の災害復旧、基盤整備、維持管理等の支援、第三者品質証明事業等に取り組んでまいります。

本日の総会では、事業報告、決算のほか、定款の一部変更、役員の就任についてご審議をいただくこととしておりますので、皆様のご理解と、ご協力をお願いいたします。

終わりに、会員の皆様の益々のご発展とご健勝をお祈りして、冒頭のごあいさつといたします。

新役員紹介

下記の方々が新役員に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。



理事 池守 典行

公益財団法人 神奈川県公園協会理事長



理事 後藤 敏行

一般社団法人 関東地域づくり協会専務理事

勤続精励職員表彰

関東地域づくり協会表彰規程に基づいた勤続精励表彰式が、6月20日（金）、東京事務所にて執り行われました。平成26年度は8名の方々が対象となりました。

式は、理事長はじめ役員立ち会いのもと粛々として表彰状と副賞が手渡され、8名の皆さんは緊張した面持ちで受賞していました。

理事長からは、「20年間という長い間、関東建設弘済会および関東地域づくり協会（平成25年4月1日、一般社団法人に移行）のために努力されましたことに感謝申し上げます。今後も、地域づくり協会として事業譲渡後の業務展開を見据え、しっかりとした基盤を築いていくことが重要です。引き続き、皆さんの努力、ご協力をお願いします」と、感謝と期待の言葉がありました。



- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| ① 笛木定男 ふえきさだお
高崎支部 | ⑤ 石坂政彦 いしがまさひこ
高崎支部 |
| ② 相木恵子 あいきけいこ
総務部・総務課 | ⑥ 松本英二 まつもとえいじ
大宮支部 |
| ③ 吉田馨子 よしだけいこ
経理部・契約課 | ⑦ 八木岡芳智 やぎおかよしり
技術部・第二積算室 |
| ④ 刈部和人 かりべかずひと
技術部・情報管理課 | ⑧ 阿部清人 あべきよと
高崎支部 |
| ⑨ 奥野理事長 | ⑩ 中村理事 |



平成26年度
関東地方整備局 関係予算について
――直轄事業は7%増の4932億円――

3月28日、関東地方整備局から平成26年度予算の事業概要が公表されました。総事業費は1兆8738億円（対前年度当初比6%増）であり、内訳は、直轄事業費が4932億円（対前年度比7%増）、補助事業費が1兆3806億円（交付金を含む。対前年度比13%増）です。予算配分額の詳細と主要な事業の概要は以下のとおりです。

■総括表(直轄事業+補助事業) (単位:百万円)

区分	平成26年度			平成25年度	倍率
	直轄	補助	合計		
治水	103,035	4,403	107,438	105,021	1.02
海岸	1,270	0	1,270	516	2.46
道路	296,831	10,924	307,755	282,504	1.09
港湾	44,786	24,816	69,602	73,432	0.95
空港	19,759	0	19,759	16,959	1.17
住宅対策	0	48,962	48,962	8,974	5.46
市街地整備	0	112,103	112,103	121,184	0.93
都市水環境整備	8,857	0	8,857	10,125	0.87
下水道	0	0	0	263	-
国営公園等	5,611	0	5,611	5,831	0.96
社会資本総合整備	0	1,179,402	1,179,402	1,135,325	1.04
一般公共事業計	480,148	1,380,609	1,860,757	1,760,132	1.06
官庁営繕	13,028	0	13,028	12,923	1.01
合計	493,176	1,380,609	1,873,785	1,773,055	1.06

※空港の金額は、東京国際空港配分額のうち、関東地方整備局の執行分。
※社会資本総合整備は、「社会資本整備総合交付金」と「防災・安全交付金」がある。
※計数はそれぞれ四捨五入しているため、端数において合計とは一致しない場合がある。

■代表事業の概要

事業の名称	事業の概要	平成26年度予定
ハツ場ダム	洪水調整、流水の正常な機能の維持、水道用水・工業用水の供給、発電を目的とした、重力式コンクリートダム（高さ116m、総貯水容量1億750万㎡）	・生活再建事業として、移転補償、湖面1号橋等の付替道路、付替鉄道、代替地等を実施予定 ・平成31年度までの完成に向けてダム本体工事を実施予定
首都圏中央連絡自動車道	首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、都心から半径およそ40～60kmの位置に計画された総延長約300kmの環状の高規格幹線道路。現在までに約170kmが開通	相模原愛川IC～高尾山IC等3区間28.4kmを4/4車線で、久喜白岡JCT～五霞IC等4区間40.1kmを暫定2/4車線で共用を目指す
東京外かく環状道路（関越～東名）	東京の中心から半径約15km地域を結ぶ延長約85kmの環状道路。関越道から東名高速までの約16kmの区間	早期供用に向け、道路設計、埋蔵文化財調査、用地買収、改良工、ランプ橋上下部工、本線トンネル工、環境整備工を推進
（千葉県区間）	千葉県松戸市から市川市に至る延長12.1kmの区間	平成29年度の開通に向け、用地買収、函渠工、改良工を実施予定

平成26年度 公益事業紹介

3月7日(金)公益助成事業審査会(外部委員2名含む)において
平成26年度の公益助成事業が全138件審議され、88件が採択されました。

地域活性化 全19件

人口減少、少子高齢化が進む社会の中で衰退している地域社会において、環境保全や観光、文化、歴史、自然等の地域資源を活用する事業への支援を通じて、地域づくり、地域活性化に寄与することを目的とする事業。

事業名

- 里山再生を環境学習に活用した持続的環境保全及び地域活性化
- 利根川源流祭り
- 道の駅の連携による集客力アップ事業 他



調査研究・技術開発 全5件

大学・団体・企業等を対象に技術開発・研究費用の一部を支援するとともに、社会資本の記録・整理・整備に関する研究活動への支援を行うなど、広く社会資本の整備の推進に寄与することを目的とする事業。

事業名

- 大谷石採掘跡地の有効利用の研究
- GPS情報に基づくクマタカの生態の解明
- 信州の土木遺産(みち、橋)の研究 他



防災 全21件

災害時の防災エキスパートおよび当会職員等による災害支援活動および平常時の防災のための公共施設点検、防災意識の向上、啓発等の広報活動支援を通じて、災害時の迅速かつ確な対応に寄与することを目的とする事業。

事業名

- 防災エキスパート活動支援事業
- 災害復旧事業技術講習会
- 市民防災まちづくり塾 他



講演会等 全6件

河川や道路等の社会資本の整備が、防災、治水、利水、物流、観光等地域社会や経済等に果たしている役割等について、講演会やセミナーの開催、優良な工事に対する表彰等を通じ、広く理解を深められることを目的とした事業。

事業名

- 建設技術展示館
- 渡良瀬遊水地環境学習講座 他



環境保全 全25件

関東地域内に残る自然環境の調査、保護、再生に取り組む活動への支援、河川や道路等の社会資本を清掃・美化する活動への支援、地域の自然に興味を促すことで環境愛護の精神を育む活動への支援を通じ、地域に貢献することを目的とする事業。

事業名

- 「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」選定団体支援
- 道路愛護活動のためのボランティアサポートプログラム
- 河川クリーン大作戦支援 他



広報 全12件

河川や道路等の社会資本の役割や重要性などについて、新聞・映像・テレビ・HP等で広く報じることにより、地域住民等の社会資本への理解が深められることを目的とした事業。

事業名

- 道のある風景写真コンクール
- 現場見学ツアーによる広報活動の取り組み
- 建設フェスタ2014による社会資本整備の重要性PR 他



完成まであと一歩！

圏央道(首都圏中央連絡自動車道)が着々と開通

首都圏中央連絡自動車道、通称「圏央道」は首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、都心から半径およそ40～60kmの位置に計画された総延長約300kmの環状の高規格幹線道路です。現在までに約170kmが開通、平成26年度内に約68kmが開通する予定です。

■平成26年度内の開通予定

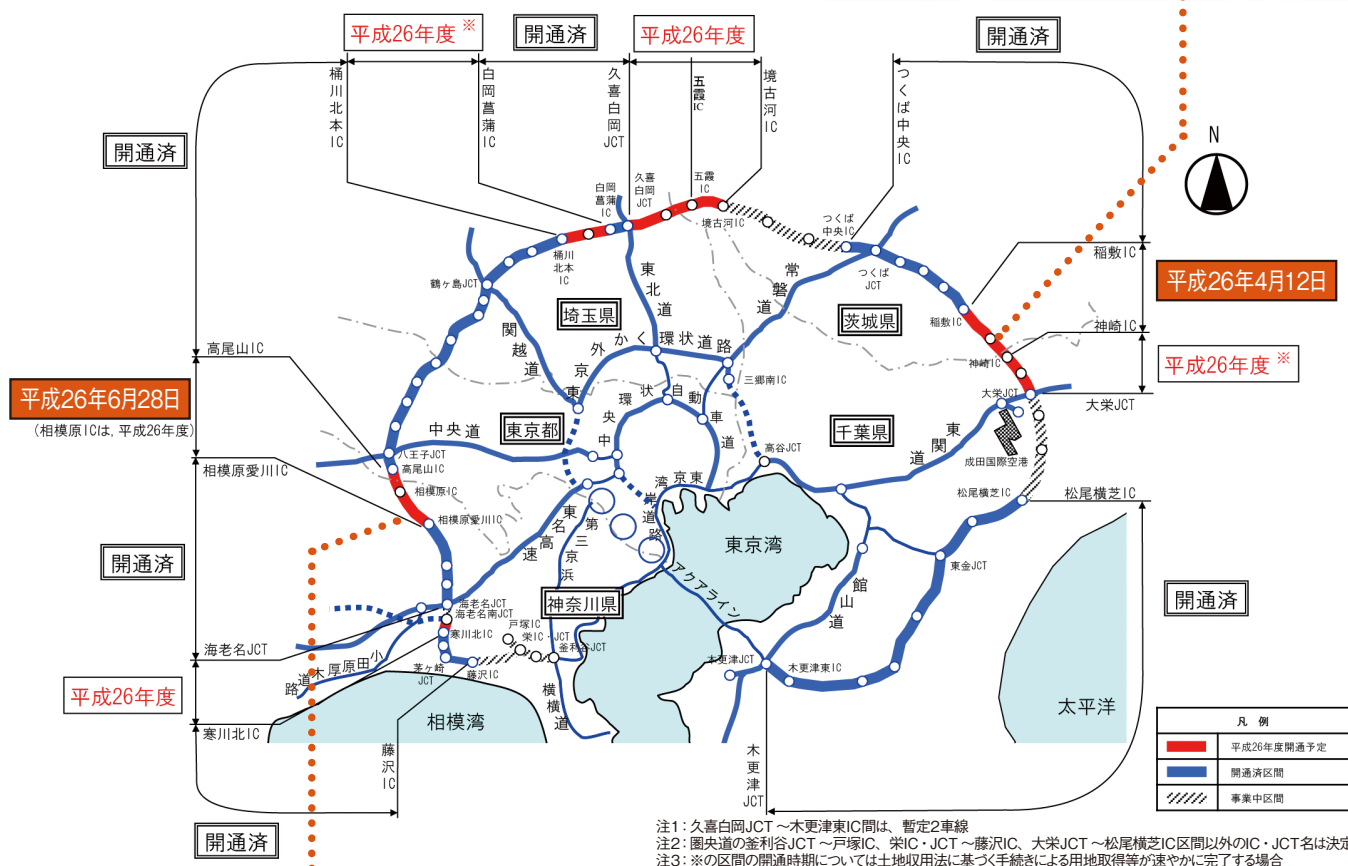
寒川北IC～海老名南JCT (延長2.8km)	4/4車線供用
相模原愛川IC～高尾山IC (延長14.8km)	4/4車線供用
桶川北本IC～白岡菖蒲IC (延長10.8km)	4/4車線供用
久喜白岡JCT～五霞IC (延長12.7km)	暫定 (2/4) 供用
五霞IC～境古河IC (延長6.9km)	暫定 (2/4) 供用
稲敷IC～神崎IC (延長10.5km)	暫定 (2/4) 供用
神崎IC～大栄JCT (延長10.0km)	暫定 (2/4) 供用

4月12日開通!

稲敷ICから神崎IC
(延長10.5km)



(写真提供: 常総国道事務所)



6月28日開通!

相模原愛川IC～高尾山IC
(延長14.8km)



相模原IC付近
(写真提供: 関東地方整備局)

大井環七立体・新木場立体 国道357号東京湾岸道路で2立体が完成！

国道357号は、千葉県千葉市を起点として神奈川県横須賀市に至る延長約92.4kmの路線であり、東京湾岸道路の一部に位置付けられています。都市内交通を緩和するだけでなく、湾岸地域に点在する空港や港湾にアクセスし、各都市を結ぶ道路として、大きな役割を果たして

います。

川崎国道事務所、首都国道事務所では、この幹線の整備を進めており、この度、大井環七立体・新木場立体が完成しました。今後もますます交通量増加が見込まれる両地点の渋滞対策として整備されました。

2月18日(火) 大井環七立体(川崎国道事務所)

環七大井ふ頭交差点(4車線・立体部延長約1.3km)



開通前

(写真提供：
川崎国道事務所)

開通後

3月18日(火) 新木場立体(首都国道事務所)

新木場交差点・夢の島交差点
(4車線・立体部延長約2.3km)



(写真提供：首都国道事務所)

地盤液状化に関する パネル展 開催

関東地方の地盤液状化～東日本大震災から3年～

関東地方整備局では、今年3月から4月にかけて、さいたま新都心合同庁舎と茨城県・千葉県・埼玉県との3県8市の公共施設等12会場にて、東日本大震災による「地盤液状化に関するパネル展」を開催しました。今回のパネル展は、関東地域づくり協会をはじめとする関係機関と各自治体が取組んできた事例等をもとにしており、液状化の実態とその対策・支援について、被災の経験を風化させることなく広く知ってもらおうと企画されたものです。展示には多くの人々が訪れ、今後の災害に対する心構えと液状化対策事業に対する理解を深めました。



(写真提供：関東地方整備局)

第63回 利根川水系連合・ 総合水防演習 開催

栃木県宇都宮市・道場宿緑地公園(鬼怒川左岸)にて

5月17日(土)、国土交通省と利根川水系に属する各県市の主催で、利根川水系連合・総合水防演習が行われました。古くから自然災害の多かった利根川水系において、水防団の水防技術習得・向上と地域住民への水防の重要性の周知を目的としており、演習の第1部は水防訓練、第2部は救出・救護訓練を実施しました。

関東地域づくり協会では、防災エキスパートによるロープワークの体験指導や防災に関するパネル展示を行いました。

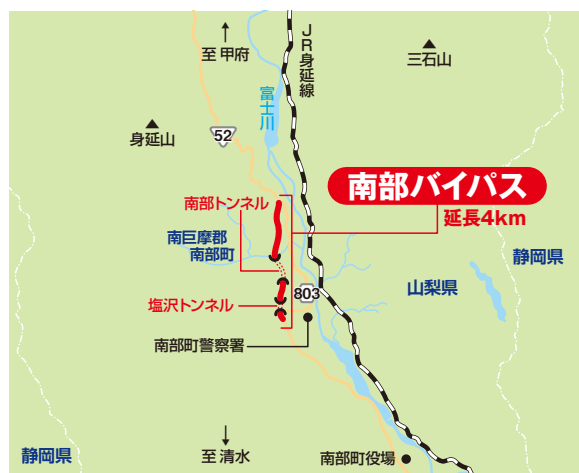


悪条件を克服して造り上げた 2つのトンネル

国道52号南部バイパス



会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、苦勞や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。第22回は山梨県の国道52号南部バイパス建設に携わった長坂清吉さん、佐伯四郎さんと現場を訪ねました。



長坂清吉さん

昭和29 (1954) 年入省、宇都宮国道工事事務所長等を経て平成3 (1991) 年退職。退職後は長野県上田市に移り住み、さまざまな地域活動に参加している。

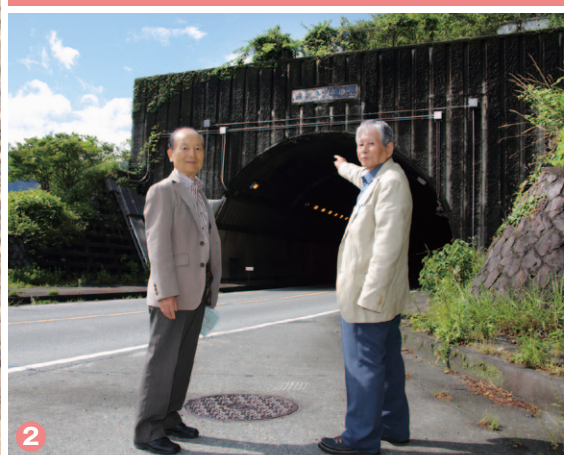
佐伯四郎さん

昭和30 (1955) 年入省、関東技術事務所副所長等を経て、平成3 (1991) 年退職。趣味は写真。旅先や身近な風景を撮影し、展覧会にも出品している。





- ① 南部バイパス建設中の様子。南部トンネルと塩沢トンネルの間の区間。用地の都合で、側道は左側のみについている
- ② 坑口で苦勞したという南部トンネル。地質が悪いだけでなく、坑口がカーブしており、傾圧を軽減するため片側に土を盛って人工的に斜面の角度を調整した



- ③ 南部バイパスの北端(甲府側)。左に下るのがかつての国道52号(旧道)だ



事故と災害を減らし、 交通を支える

「苦勞したけれど、面白かったね!」

一歳違いの長坂清吉さんと佐伯四郎さんは、ほぼ同時期に甲府工事事務所(当時)に配属になり、共に汗を流した仲である。長坂さんは昭和53(1978)年10月から昭和57(1982)年4月まで工務第二課長として、佐伯さんは昭和53年4月から昭和56(1981)年10月まで建設監督官として同事務所に在籍した。当時は40代前半の働き盛り。その頃を思い出すと、「いやあ、まいった」と言いながら二人は笑顔になる。よく働き、悩み、遊んだ3年半だった。

二人にとって思い出深いプロジェクトが、一般国道52号南部バイパスの建設である。

「私は工務課長でしたから、事務所で進めている各地の道路工事について、年度予算に基づき事業計画を立て、設計を修正し、積算・発注をするのが仕事。基本的には甲府の事務所にいて、何か問題が発生したときには南部町の現場に駆けつけるわけです」と長坂さん。

一方の佐伯さんは「私は南部バイパスの現場監督官とし

て赴任したので、甲府から約1時間半の道程を車で毎日通っていました」と当時を振り返る。

一般国道52号はかつての駿州^{すんしゅう}往還であり、甲府から静岡に至る幹線道路だ。県中北部を東西に走る国道20号とともに、山梨県民の生活と文化を支えてきた。この路線は、約50kmにわたって富士川沿いを南下するだけでなく、中小の河川とも併行し、急峻な山間部を通過する。山間部は、雨の多い気候のせいで法面崩落や落石、路肩崩壊の危険性も少なくなかった。整備は順次進められていたが、昭和55(1980)年の時点では6カ所延べ延長15.5kmが異常気象時における通行規制区間に指定されていた。そうした区間での法面補修や洞門の設置といった防災対策も、長坂さんが在任中に力を注いだ事業の一つである。

南部バイパスは静岡県との県境にほど近い、南巨摩郡南部町内に位置する。8つの橋梁(うち1つは高架橋)と2つのトンネルを含む、延長約4kmの道路である。

旧道は、集落の中心を通る幅員5.0～5.5mの道路だった。歩道もない狭い道である。昭和40年代以降の急激な経済発展による交通量の激増や車両の大型化さらには



④ 南部トンネル内部の工事。坑口では地質が軟らかくて苦労したが、内部は岩質。順調に掘り進んだ

⑤ かつての現場を歩けば、当時の記憶がよみがえってくる

⑥ 昭和55(1980)年、10月17日の貫通式

⑦ 事務所の仲間同士、よく遊んだ。谷川岳にて(前列中央が長坂さん、前から2列目左端が佐伯さん)



富士川の砂利を採取して運搬するダンプカーの通行が増えたことにより幹線道路としての機能が果たせなくなっていた。このバイパス整備は急務だった。

地形と地質の悪条件に苦労した2つのトンネル

南部バイパス建設において、最も苦労したのが南部トンネルと塩沢トンネル、2つのトンネル工事だ。

困難の大きな原因を、長坂さんは次のように説明する。「まず1つには雨が多いこと。もう1つは、フォッサマグナ地域西縁の糸魚川-静岡構造線断層帯にあたるため地^じ山^{やま}が脆弱で、地すべり(地面が大きな塊のままゆっくりとすべり落ちること)が起きやすいことです」

各地でトンネル工事をしてきたが、振り返ってみると南部・塩沢、この2つのトンネルが一番苦労したと二人は口を揃える。山々が押し合うように隆起している南部町の地形は、二人曰く「山にも^まれ^ている」。このような地形では、山を削ってトンネルや道路を通すのは難しい。掘り進めるそばから「山が滑って」きて、土砂を運ぶトロッキを走らせるレールが波打ち、トンネル自体も波打ってしまうのだ。「それに加えて各地点の地形や地質の問題があり、南部トンネル、塩沢トンネルそれぞれ、あらゆる工法を取り入れて工事を進めました」(長坂さん)

先に取りかかったのは、南部トンネル(延長670.5m)。こちらは坑口で思わぬ苦労をさせられた。トンネルの入口

が、地形の都合で山の斜面に対して斜めに入る設計になってしまった上、地質が脆くてどうにもならない。保護コンクリートで囲ってから掘ってみたが、「大丈夫かなと思っていたら、坑口からいくらか内側に進んだところでドシャーッと天井が落っこちて来たんです。完全に穴があいて、空が見えてしまいました」(長坂さん)。

もちろんあらかじめ地質は調査してあるが、調べられるのはあくまでも採取した一部分であり、全面の地質が分かるわけではない。仕方なく、坑口周辺の土に薬液を注入し、固めてから掘ることになった。掘り進めるとトンネル内部の地質は堅いくらいで、両側の坑口以外はそれほど問題はなく進んだという。

塩沢トンネル(延長365m)は、輪をかけて問題が山積みだった。まず、山裾に近いトンネル上部の土が薄く、掘るのが難しい。地山の緩みを防止するため、坑口となる場所の外周に沿ってパイプを水平に打ち込み、土砂を支えるパイプルーフ工法を施してから掘削することにした。そして内部まで掘り進めたのだが、こちらは中まで地質がよくない。

「泥岩でした。とても堅くて発破をかけないと崩せないのです。それなのに、外に放り出して雨に打たれるとぐちゃぐちゃに溶けてしまう。盛土に使う予定だったのですが、とてもそのままでは使えず、加工の処理をしなければなりませんでした」(佐伯さん)。南部トンネルと500mほどしか離れていないのに随分と違うものである。



⑧⑨ 塩沢トンネルは山裾に近く、しかも地質が泥岩という悪条件。坑口に沿って鋼管を打ち込むパイプルフ工法（写真⑨）など、あらゆる方法を試した



⑩ 塩沢トンネルの清水側坑口。道路にするため削った山の斜面の滑りを止めるために護岸を張って歩道を確保した



⑪⑫ 南部町で現在建設中の中部横断自動車道。「道路ができることは、希望につながります」と話すのは、南部バイパス建設当時、南部町役場の建設課係長を務めていた萩原敬さん（左）。新しい道の建設を日々見守っている

地質が悪く、地すべりしやすい場所を掘削するときは時間との勝負になる。問題が起こるたび、工夫をしながら乗り越えなければならなかった。

その都度、甲府の長坂さんに連絡が入ったが、「私が現場に着いたら、もう処置がしてある。佐伯さんには『長坂さん、こんなふうにやっちゃいましたよ』なんて言われてね。最初は『なんでこんなことしたんだ!』と思いました。見てみるとそれが一番いい方法だった。私たちはいいコンビだったんでしょうねえ」と長坂さんは笑う。佐伯さんに言わせれば、「とにかく即断即決が必要。現場は止まれませんから」。仕事だけでなく、共に遊びに出かけたり飲み交わしたりすることで、お互いへの信頼ができあがっていたのだろう。

工夫のためには、工事を担当した建設会社の技術者と相談して意見を出し合うこともあった。工事には地元の業者が多数参加していた。トンネル建設では、3交代制で24時間、休みなく工事は進む。トラブルがあって工事が止まったら、作業員のその日の仕事、その日の稼ぎがなくなってしまう。「作業員の生活を守るためにも、工事はできるだけ途切れることなく進めなければならないのです」（長坂さん）。

数々の悪条件を克服し、南部トンネルは昭和56（1981）年3月に、塩沢トンネルは昭和58（1983）年1月に本体が完成。南部バイパス全線が開通したのは、昭和58年4月のことだった。

人々の期待に応える道造りを

南部バイパス建設において、特筆すべきは用地取得の早さである。昭和51（1976）年に計画策定、用地取得に入り、着工したのは昭和53年。この規模の道路では考えられないほどスムーズに進んだといえる。

「南部町長が率先して協力し、町役場が地元住民とのパイプ役になってくれていました」と佐伯さん。工事中は佐伯さん自身、時には南部町に泊まり込んで地元の人々と対話を重ね、協力を得られるよう努めたと話す。

現在、南部町議会議長を務める萩原敬さんは、当時、町役場の建設課係長として用地取得の説明のため準備に奔走した。「道沿いにあたる家々の要望をまとめたり説明に回ったり、忙しかったですね。町民の多くがバイパス建設を歓迎していましたし、工事中は町全体が賑やかで活気づいていました」。それだけ町民からは、バイパスの完成が待ち望まれていたということだろう。

南部バイパスの開通から約30年経った今、南部町では新たな高速道路——中部横断自動車道が建設中である。山間の小さな町を見ていると、道を整備することには大きな意味があることがよく分かる。「周辺地域とつながり、自由に行き来できる道路ができることは、人々の希望につながるのです」と萩原さんは話す。新しい道とともに、南部バイパスはこれからも、その役目を果たしていくだろう。

関東の河岸めぐり



江戸と奥州方面との 交通を支えた境河岸



かつて関東地方は河川水運の発達した地域でした。その証として各地に残るのが河岸です。それらの河岸の歴史と現在を訪ねる新シリーズ。第1回は茨城県猿島郡境町の境河岸です。

年貢米や紅花、漆器などが運ばれる

利根川と江戸川が分岐するあたりに位置する茨城県境町。江戸時代から大正時代にかけてここにあったのが境河岸です。江戸と奥州地方（東北地方）を往来する人々や荷物を船に揚げ降ろししていました。

江戸時代初期、この地には利根川を渡る境の渡しがありました。

その後江戸川の整備が進み、江戸川を船で下ることが可能になると、境の渡し場には江戸と奥州方面を往来する人や荷物が集

まり、水陸交通の拠点として次第に整備されていきました。これが境河岸の始まりです。

境河岸で主に扱われた荷物は、東北地方から送られてくる年貢米や山形県最上の紅花、福島県会津の漆器などです。また境町近郊で収穫されたゴボウやレンコンなども江戸に送られました。これだけの荷物が境河岸に集中するのですから、多くの人手が必要となります。江戸中期の境町の人口は約1800人。その半数以上が船持（船頭）や船乗、荷物を船に揚げ降ろしをする小揚（こあげ）など運輸関係に携わる人々だったといいます。次いで多かったのが魚介類を扱う浜方問屋や雑穀問屋で働く人々。境町は境河岸を中心に交通商業で発展していきました。

鉄道や自動車の普及で衰退する

当時使用されていた船は、高瀬舟と呼ばれる大型の川舟です。最大のものでは全長約30mもあり、米俵を1,300俵も運ぶことができたそうです。この他にも人を運ぶ平田船など、大



江戸時代の地図。
日光東往還
(結城街道)の境から
船で関宿に渡っていた

埼玉県立浦和図書館所蔵

境の渡し

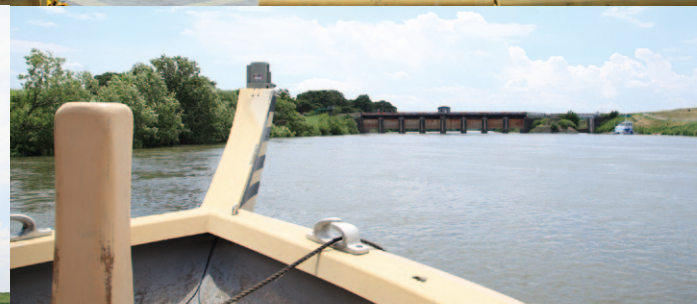
道の駅から国道354号を少し進むと「境の渡し」の看板が。ここに境河岸があった

船問屋を模して造られたという道の駅さかい。店内食堂でいただける十割そばは絶品



観光用に復元された高瀬舟「さかい丸」。一日4回江戸川の関宿水閘門辺りまで周遊している。陽気な船頭さんと

旧関東建設弘済会が選定した関東の富士見100選に境河岸が選ばれている。関宿城の左側に富士山が見える



高瀬舟「さかい丸」から見た関宿水閘門



関宿城。関所としての機能を持っていたため、境河岸から船で対岸の関所に渡った



小ささまざまな船が行き来していました。明治23(1890)年、利根川と江戸川を結ぶ利根運河の開通で境河岸を利用する船は一時は年間2万隻を超えます。しかし、鉄道や自動車の普及によって次第にその数は減少し、いつしか歴史の中に消えていきました。

境河岸は今も残っているのでしょうか。行ってみると「境の渡し」の看板や復元された船着場もあり、境河岸の面影は辛うじて残っていました。境河岸を含んだこの周辺は茨城百景記念公園として整備され、散歩する人や景色を楽しむ人が訪れます。船着場には観光用に復元された高瀬舟「さかい丸」が一隻だけ停まっていた。毎日4回、江戸川との分岐点まで周遊しています。川風に揺られながら静かに佇むさかい丸が、在りし日の境河岸の隆盛ぶりをしのばせてくれます。



大宮支部 山科清和さん

以前、栗橋支部に勤務していました。境町周辺にはよく訪れていましたが、さかい丸に乗ったのは初めてです。地上から眺める関宿城もきれいですが、船からの景色も一味違って新鮮ですね。



取水、排水に 大きな役割を果たす

埼玉県幸手市内を流れる中川(旧権現堂川) 沿いにある権現堂堤は関東でも指折りの桜の名所です。約1km続く堤にはおよそ1000本の桜が植えられており、春になると多くの人が訪れます。

今回の土木遺産は、その権現堂堤沿いにある権現堂川用水樋管群です。巡礼樋管と同取付堤防、そして権現堂川用水新堰をまとめて樋管群としています。巡礼樋管とは権現堂堤に伝わる悲劇的な人柱伝説にちなむ名前です。

樋管と堰は水利施設の種類です。樋管は堤防の下をくぐり抜ける小水路のことで、門樋や樋門と呼ばれることもあります。堰も樋管と同じ機能を持ち、土手などに埋めて水の出入りを調整するものです。川から取水したり川へ排水するために、こうした施設は欠かせません。

巡礼樋管が埋設されたのは天保12(1841)年のことです。島中領内(かつての北葛飾郡栗橋町。現在の久喜市)の悪水を権現堂川に排出せず、北側用水(加須市・久喜市・幸手市を流れる農業用水路)に導水し加用水(補給水)と

するために設置されました。

明治25(1892)年に取水量を増加させるため、巡礼樋管から権現堂川に向けて開削したのが権現堂川用水です。現在は、後述する権現堂川用水新堰が残っています。

巡礼樋管は明治31(1898)年12月には木造樋管から煉瓦造り樋管に改築。しかし、翌年10月に悲劇が起こります。暴れ川として恐れられていた権現堂川が氾濫し、改築されたばかりの樋管は破壊され、堤防も崩れてしまいました。これにより幸手町(現在の幸手市)の内国府間・八代村・吉田村・行幸村ほか四村が浸水し、田畑の被害は約2000町歩(1町歩=9920㎡)に達したと伝えられています。

独創性のある 設計や装飾

巡礼樋管の損壊は大問題となりました。同樋管を通ってくる水を利用したい住民と、不要とする住民が施設の撤去・移設をめぐり、鋭く対立したのです。この状況を重く見た内務省は、「樋管は権現堂堤の適当な場所に移設すべき」という裁決をしました。混乱が収まらない中、明治33(1900)年6月に新たな木造樋管が上流に竣工しましたが、



関東の土木遺産 第22回

桜並木に遺る

権現堂川 用水樋管群

埼玉県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。



それらの土木遺産の中でも特に価値あるとされるのが選奨土木遺産。関東地方の選奨土木遺産を訪ねての旅。第22回は埼玉県幸手市にある権現堂川用水樋管群です。

権現堂堤にある巡礼樋管(川裏)
正面に見える銘板には
「巡禮樋管」の文字が刻まれている



約1000本の桜が植えられている権現堂堤。春になると多くの観光客でにぎわう

巡礼樋管



この樋管もわずか数カ月で損傷。工事関係者の間では不良用材や不正工事が原因などと噂され、管理者である北葛飾郡長が監督責任を追及される事態に発展したのです。

昭和8(1933)年3月に場所を移し、新設の取付堤防とともに鉄筋コンクリート樋管が竣工します。それこそが現在の巡礼樋管と同取付堤防です。

1世紀以上前の高い技術を 今に伝える

選奨土木遺産選考委員の小林寿朗氏は巡礼樋管の選奨理由をこう話します。「鉄筋コンクリートによる工法が展開された時期の初めに施工されたアーチ型の巡礼樋管は貴重な施設です。胸壁はオーバーハング構造（上の部分が張り出して設計された形式）で堤体の幅を縮小しています。また、高欄（橋や廊下の欄干。落下防止の手すり）や地覆（高欄の一番下に取り付ける横木）の表面には木目の模様（高欄の一番下に取り付ける横木）の表面には木目の模様が施されています。独創性のある設計や装飾であり、技術的価値が高いと言えるでしょう」

巡礼樋管から少し離れた場所にあるのが権現堂川用水新堰です。権現堂川用水は権現堂川からの水を北側用

水に加えるために開削されました。同年、権現堂川から取水するための木製樋管が完成。その後、明治38(1905)年に改築された煉瓦造りの矩形型樋管が現在の権現堂川用水新堰です。

新堰に使用されている煉瓦には、埼玉県榛沢郡上敷免村（現在の深谷市）の日本煉瓦製造株式会社で造られたことを示す「上敷免製」の刻印があります。これは当時の最優良ブランドの証しであり、品質保証のマークです。

「新堰の姿は明治に竣工した当時のままで、煉瓦も鉄製の巻き上げ機も何一つ変わりません。良い材料と高い技術で造られている証拠です」（小林氏）

巡礼樋管と権現堂川用水新堰は、権現堂川の廃川などに伴い、現在は水利施設としての役目を終えています。土木学会は平成22(2010)年に巡礼樋管と同取付堤防、権現堂川用水新堰を権現堂川用水樋管群として選奨土木遺産に認定しました。

度重なる水害にも負けず、排水不良や水不足に悩む人々の暮らしを支えてきた樋管群は、権現堂堤の桜の美しさとともに後世に残る貴重な遺産です。

参考文献：『幸手市史 通史編Ⅰ・Ⅱ』（生涯学習課市史編さん室編）



表面に木目の模様が施された高欄



川表から見た巡礼樋管



権現堂川用水新堰

明治38(1905)年完成の煉瓦造り樋管。1世紀以上経過した今も姿は当時のまま



桜だけではなく季節によっていろいろな花が楽しめる権現堂堤。緑に囲まれた堤は暑い日でも涼しく感じる



1802年の権現堂川の洪水で人柱になったと言われている巡礼母娘の供養塔。権現堂堤が権現堂川の洪水に悩まされた歴史を物語る



会員のひろば

このページは
会員の皆さまの
投稿によるページです

単身赴任先で出会った3匹



半居候の猫。
妙に貫禄がある

我が家に猫が来た

2000年のある日、当時高校2年生の長男が子猫を拾ってきた。学校帰りに何匹か捨ててあった猫のうち、一番元気なのを拾ってきたという。これは我が家にとって大事件だった。なにしろ、初めての「ヒト科以外の哺乳類」だったのだから。

名前は“エム”君にしたが、誰もそう呼ばなかった。この猫は9歳で亡くなるまで家族の一員になった。

一緒に生活をしてみて分かったことだが、この猫、すぐイライラするしよく怒る。しつこくされるのを嫌うくせに、機嫌がいいと一緒に遊びたがる。が、自分が飽きると不意にやめてしまう。

一時、輪ゴムのダイビングキャッチに凝っていたことがある。遊びたくないと輪ゴムをくわえて催促してきた。輪ゴムを飛ばすとかわえて戻ってくる。そしてまた飛ばす。くわえてくる、飛ばす……。だが、いきなり飽きるので、最後はいつも私が輪ゴムをとりに行く羽目になる。

自分が意外に猫好きだということが分かった。しかし猫からは、しつこすぎていくらか嫌われていた。

単身赴任先でも猫

そんな中、私は単身赴任で渋川に行くことになった。住んだのは木造アパートの2階。斜め下の1階の住人は夫婦して夜の商売らしく、私が帰る時間には不在で、日が変わるところに帰宅していた。

その部屋の住人がある日、猫を3匹飼いはじめた。どうして分かったかですって？ 毎日、私が帰るとその音を聞きつけて、バルコニーにすっ飛んでくるからだ。

その猫たちを、何回か写真に撮った。そのうちの1枚が、私がこれまでに撮った中で最高の1枚である。

猫のノイローゼ？

2005年、家を新築したので、猫は家族とともに官舎から新居に引っ越すことになったのだが、これが大変だった。夜な夜な「前の家に帰りたい」と鳴くのだ。

私は単身赴任中だったので被害は土日だけだったが、一緒に住んでいる家族は毎晩である。本人（猫）は昼間寝ているからよいが、家族はたまったものではない。獣医に相談したところ「本棚の上など、高いところに誰からも見えないように箱を置いておけばよい」。猫はすぐにその中に入り、私たちは安眠を取り戻すことができた。このとき初めて、「猫は家につく」と実感した。

エム君との別れ

2009年、猫は重度の糖尿病になった。気づいたときには手遅れで、4日間入院して亡くなった。

毎日見舞いに行っていたが、最後の日、私の目の前で、檻の真ん中から奥の端まで歩いた。「オラが具合悪くて寝ているのに、うるさい奴らだ」と思ったのだろう。これが最後の、歩く姿だった。

半居候の猫

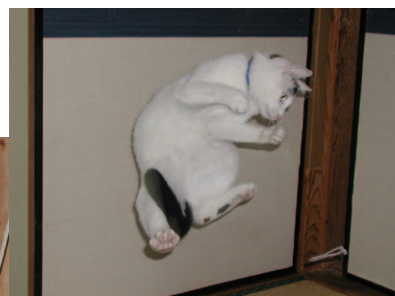
我が家のすぐ隣にゴミの集積場があり、2012年の春頃から野良猫が何匹か集まりはじめた。ゴミ袋を破ったりしてあまり評判はよくなかった。勝手な言い分とは分かっているが、私は、餌をやればゴミ袋を破らないのではないかって思ってキャットフードをあげていた。そんなことから、2匹の猫が我が家に半居候状態になった。

その2匹は、去年の9月頃まで頻繁に姿を見せたが、このところほとんど見なくなった。ときどき見かける姿からはそう痩せ衰えてもいなかったのに、誰かに餌をもらっているらしい。

猫のいる暮らし

齋藤博明

元関東地方整備局
利根川ダム統合管理事務所副所長



エム君のダイビングキャッチ！
……でも失敗

新会員をご紹介します

新しく26名の方々が入会されました。これからよろしくお願いいたします。

氏名	現勤務先	氏名	現勤務先
池守 典行	(公財) 神奈川県公園協会	谷本 光司	(一財) 国土技術研究センター
石井 武	(一財) 橋梁調査会	土屋 光博	ショーボンド建設(株)
泉 達也	(一社) 関東地域づくり協会	中島 威夫	国際航業(株)
市川 広志	(一財) 日本デジタル道路地図協会	中庭 修	(一社) 関東地域づくり協会
江口 要	(一社) 関東地域づくり協会	深沢 正彦	(一社) 関東地域づくり協会
柏樹 重暢	(株) 建設環境研究所	藤田 浩	(株) アイ・ディー・エー
河田 博之	(一財) 国土技術研究センター	星野 辰雄	(一財) 建設業技術者センター
木村 國男	関口工業(株)	宮尾 博一	共和コンクリート工業(株)
小林 隆幸	関東建設マネジメント(株)	武藤 信義	(一社) 関東地域づくり協会
佐藤郁太郎	(一社) 関東地域づくり協会	望月 勝弘	関東建設マネジメント(株)
山藤 稔	(一社) 関東地域づくり協会	森永 教夫	パシフィックコンサルタンツ(株)
其田 誠	(一社) 関東地域づくり協会	柳谷 哲	グリーン・コンサルタント(株)
高松 良行	(一社) 日本建設機械施工協会	山岸 美夫	(一社) 関東地域づくり協会

職場を去られた方をご紹介します

下記25名の方々が職場を去られました。

氏名	勤務先	氏名	勤務先
飯野 忠雄	TSUCHIYA(株)	篠崎 実	(公財) 河川財団
板倉 信	(株) ガイアートT・K	清水令一郎	(一財) 建築コスト管理システム研究所
海老沼弘五	(独) 労働者健康福祉機構	鈴木 晨夫	(株) NIPPO
太田清三郎	西武建設(株)	高田 雄行	岳大土木(株)
大田原幸亘	八千代エンジニアリング(株)	仲澤 長一	日本道路興運(株)
岡澤 文偉	(株) 三柱	中條 義夫	丸栄コンクリート工業(株)
小川 祐示	国際航業(株)	中矢 弘明	NPO法人砂防広報センター
北 資寿	村本建設(株)	永山 昌幸	(株) 間瀬コンサルタント
木村 久彌	(一財) 国土技術研究センター	藤城 泰行	ショーボンド建設(株)
小島 博之	(株) エコー	武捨 勇	関東建設マネジメント(株)
酒井 史郎	(株) ケージーエム	森 英郎	(株) LIXIL
坂井 勳	(株) 四門	渡邊 義正	シバタ工業(株)
佐久間邦夫	中野土建(株)		

お悔やみ申し上げます

11名の方々に心からご冥福をお祈り申し上げます。

氏名	逝去年月	退職時職名	氏名	逝去年月	退職時職名
山里 尚英	平成 26 年 1 月		横倉 勇	平成 26 年 3 月	武蔵丘陵森林公園 管理所長
森 栄	平成 26 年 1 月	江戸川 出張所長	木村富久男	平成 26 年 3 月	国営公園工事 事務所長
木村 実	平成 26 年 2 月	利根川下流 出張所長	小山 剛司	平成 26 年 5 月	神奈川県 県土整備部長
関山 貞仁	平成 26 年 2 月		渡邊 宏	平成 26 年 6 月	霞ヶ浦導水 副所長
大小原佳一	平成 26 年 2 月	利根川上流 副所長	島田 洋一	平成 26 年 6 月	荒川下流 建設専門官
橘田 幸男	平成 26 年 3 月				

現場見学ツアーに協力しました

東京港トンネルウォーキングツアー ・ 圏央道見学ウォーキング

関東地域づくり協会では、土木学会が創立100周年記念事業の一つとして、関東地方整備局や建設会社などの協力のもとで企画した、土木工事現場見学ツアーに協力しています。このツアーは、工事現場の見学を通じて、モノづくりの面白さ、道路や河川などの社会資本が果たす役割について、広く知ってもらうことを一つの目的としています。

3月29日（土）には第2回目の国道357号「東京港トンネルウォーキングツアー」が行われました。46名の参加者は、「東京湾今昔物語」をサブテーマに、江戸湾にまつわる民話ライブや和楽器によるコンサートも楽しみました。

6月8日（日）には「圏央道見学ウォーキング」が行われました。開通（6月28日）直前の圏央道相模原愛川IC～高尾山IC（14.8km）のうち、相模原IC～高尾山IC間のウォーキングだけでなく、建設中の相模原ICを見学し、圏央道周辺の土木施設（宮ヶ瀬ダム、小倉橋）をバスで巡る盛りだくさんの内容。115名の参加者は、バスの中で当会職員ガイド4名による圏央道の整備効果等の説明を受けた他、高速道路のウォーキングや工事中の現場見学など貴重な機会を満喫しました。

圏央道見学ウォーキング



開通直前の
圏央道
相模原IC～
高尾山IC間の
約3.5kmを
歩きました



バスで近郊の
土木施設も巡りました。
関東で最大級の宮ヶ瀬ダムでは
放流を見学

東京港トンネルウォーキングツアー



大井町からお台場まで
約4kmの道程を
歩きながら見学。
トンネル内では
コンサートも



編集委員会だより

2014年7月

局的な豪雨・雷、さらに大量のひょうまで降る今年の梅雨。すつきりしない空模様が続く日々の中、2014 FIFAワールドカップ・ブラジル大会が開催されており。今日も早朝5時からのコロンビア戦を見てしまいました。5時45分過ぎには一度笑顔になりましたが、やはり負けてしまい、結果、1分け2敗でグループリーグC組最下位となってしまいました。残念な結果ですが、ランキング上位3チームに対し善戦したとも言えるのではないのでしょうか。

先日は、全米男子プロゴルフ、全米女子プロゴルフと早朝からのスポーツ中継が続き体内時計がずれてしまっています。これから、ワールドカップ決勝トーナメント、ゴルフでは全英男子・女子オープンが行われます。いつになったら体内時計が元に戻るのか、どうしたらよいのか誰か教えてください。

（編集委員 Y・I）

編集委員

● [関東地域づくり協会]
飯田芳夫・刈部和人
櫛引繁雄・高橋順一
高橋芳子・仲川博雄
八木澤和人
[会員]
小林豊((株)大本組)
田中良彰(大成建設(株))